

第 5 章 その他

5.1 専門家等の助言内容

本計画段階環境配慮書の作成に当たっては、各々の環境要素（大気質、騒音・振動、水環境、地形・地質、動物（哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類等、昆虫類）、植物、生態系、景観）の専門家等 11 名から、計画段階配慮事項の選定や計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の手法について助言を受けた。主な助言内容は表 5-1 に示すとおりである。

表 5-1 専門家等からの主な助言内容

専門分野	専門家等の所属機関の種別	助言の内容
騒音・振動	教育機関	今後の環境影響評価においては、近傍で別事業がある場合は、その影響も見込んで影響予測を行っていくことが重要である。
水環境	教育機関	水質（水の汚れ）に係る計画段階配慮事項については、施設からの排水の他、雨水排水の影響も考えられるため、「土地又は工作物の存在及び供用」として選定したほうが良い。 雨水排水対策については、今後の環境影響評価の調査結果によっては新たな対策が必要となる可能性がある。
動物（哺乳類）	研究機関	佐賀空港周辺ではアライグマ、キツネ、タヌキ、ニホンイタチ、カヤネズミ、アブラコウモリ、オヒキコウモリは生息している可能性がある。
動物（鳥類）	自然保護団体	佐賀空港周辺で繁殖している種として、ホオジロ、セツカ、オオヨシキリ、モズ等が考えられる。また、シギ・チドリ類も生息していると考えられる。冬場は猛禽類（コミミズク、ノスリ、オオタカ）が、飛行場周辺を越冬場所として利用している可能性がある。複数案のうち案 2 の場合は、西側にもヨシ原があるため、改変の影響が大きいと考えられる。
動物（両生類・爬虫類）	研究機関	両生類の重要種のうち、佐賀空港周辺ではトノサマガエル、ツチガエルが生息している可能性があり、爬虫類ではニホンスッポンが生息している可能性がある。
動物（魚類）	研究機関	佐賀空港周辺の重要種として、カワバタモロコ、ニッポンバラタナゴが生息している可能性がある。
植物	研究機関	佐賀空港周辺の重要種として、カワヂシャ、ミゾコウジ、コギシギシ、コイヌガラシが生育している可能性がある。